

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立平泉寺小学校

【今年度の重点内容】

- 「進んで運動に取り組む子」90%以上を目指した体育の授業、体育的活動の工夫
- 考えながら運動することを目標とした授業、体育的活動の工夫
- 地域、伝統を生かした活動（器械運動、なわとび、クロスカントリースキー）

<体育の授業について>

- ・体育の授業では、準備運動として「逆さ感覚、腕支持感覚を養う運動」「柔軟性を養う運動」「体幹を鍛える運動」を全学年が毎時間取り組むことで、学校全体の運動の基礎力養成を図る。
- ・水泳学習時は安全確保につながる運動として、着衣泳を実施し、緊急時の対応についても指導する。
- ・伝統ある器械運動発表会やクロスカントリースキー、なわとび（短縄・大縄）を体育の授業や業間運動において積極的に行い、体力・技能の向上を図る。
- ・保健の授業で、養護教諭・薬剤師や保健師と連携しながら薬物乱用について取り扱ったり、2か月に一度の身体計測時に、発達段階や季節等に応じた保健指導を取り入れたりする。
- ・昨年度の体力テストで「ボール投げ」の結果が良くなかった。結果を改善するために授業の準備運動にフォームづくりの運動を取り入れ、投擲能力の向上を図る。

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- ・校内マラソン大会、器械運動発表会、スキー教室、縄跳び大会など季節に合わせた体育的行事を実施する。
- ・業間運動では、週2回（火・金曜日）、夏季はミニマラソン（雨天時は短縄跳び）、冬季は短縄跳び・大縄8の字跳びを行う。ミニマラソンは、学校周辺を走る時間走とする。走ったタイムを記録すると周回を記録する「マラソンカード」には、毎回目標のタイム、周回を書かせめあてをもって取り組めるようにする。さらに、月末に規定コースの計時をし、記録の変化を表にすることで、意欲の持続を図る。雨天時や冬季には短縄跳びでは、技能跳びの学年目標を作成し、技術の向上を図る。
- ・行事や大会などを生かし、業間や放課後に器械運動、クロスカントリースキーの練習会を実施する。
- ・大休みや昼休みには、グラウンドや体育館での外遊びを奨励する。教師が率先して鬼ごっこや遊具を使った遊び、ボールを使った遊びなどをすることで、児童にいろいろな外遊びを経験させるようにする。
- ・業間運動で縄跳びを行う際には、コロナ感染症の状況を見て体育館の割り当てをしたり、廊下を使ったりして、密を避けながら活動する。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取り組み等）>

- ・勝山恐竜クロカンマラソンや市少年少女スキー大会などの地域の体育的行事への参加を家庭に呼びかけ、家族と一緒に参加したり応援に行ったりして、運動する楽しさを共に味わう。
- ・健康な心と体を育てるために、早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせていく。毎月1週間、「ヘルスチェック」を行い、養護教諭と担任が適時児童に声をかけていくと同時に、家庭との連携を緊密に図るようにしていく。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学校名 勝山市立成器南小学校

心も体もActiveに 主体的に運動に取り組むことで、しなやかに生きる南の子の育成

<体育の授業について>

◎豊かなスポーツライフの実現にむけて、各種の運動の基礎を培う。

- ・「する」だけでなく「見て学ぶ」、「自分の課題を見つける」、「考える」、「伝える」、「支える」など、さまざまな活動を通して、運動やスポーツとの多様な関わり方を見出していけるようにする。
- ・自己の運動や身近な生活における健康の課題を学習につなげるように学習課題の設定を工夫して、主体的に運動に取り組むことができる児童の育成を目指す。
- ・体力テストを、自身の運動能力を見つめる機会と捉え、個人の目標を持ち自己の成長を感じられるようにする。授業の準備体操にグーパー体操やストレッチの時間を確保して、握力や柔軟性が高められるようにする。
- ・体育の学習カードを工夫して、児童が自分の力の成長や学習の取り組みが分かるようにする。
- ・冬期においては地域性を活かしたクロスカントリースキーに取り組み、雪に親しむ運動を大切に

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

◎仲間と切磋琢磨しながら、自分の目標を達成するために運動に取り組める場となるようにする。

- ・校内マラソン大会…… 5月下旬に実施。がんばりカードなどを大切にして、粘り強く運動を続けることや自己目標の達成感や自己の成長を感じられる場とする。
- ・勝山市連合体育大会…… 9月中旬実施。5・6年生が参加。選手種目のほか全員種目の大縄やラジオ体操によって、全員の体力の向上を図る。
- ・PTA合同体育大会…… 10月上旬実施。主体的な活動の場となるように種目を工夫する。また、種目の一つとして色別の8の字跳びを実施する。なかよし班で練習を積み、回数を競い、各班の成長を共有できるようにする。
- ・校内スキー教室…… 1月下旬実施。地域性を活かして雪に親しみスキー技能を高める。
- ・校内なわとび大会…… 2月中旬実施。継続して練習を積み、大会は達成感が得られるような場とする。練習では、なわとびカードなどを用いて、自己の成長を振り返られるようにする。

※レッツランタイムの実施

火曜日と金曜日の週2回、業間に全校で実施。クラスごとの時間走を基本とする。

6月から、短距離走、鉄棒、登り棒などを取り入れたサーキットトレーニングを実施する。

(☆4月～11月の毎週実施、雨天時と12月～3月は、校内でなわとびタイムの実施)

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取組み等）>

- ・校外での体育的行事を児童に紹介し、積極的に参加するよう促す。(恐竜クロカンマラソンなど)
- ・低学年の「マットを使った運動遊び」と「跳び箱を使った運動遊び」の授業では、外部指導者を招いて学習を進める。中学年の「表現運動」の授業では、トップアスリートの派遣を要請し、なわとびを用いた表現運動の学習を進める。校内マラソン大会や、校内スキー教室では、積極的に保護者ボランティアを募集し、家庭や地域の協力を得ながら実施する。
- ・感染のリスクを減らすために、校内スキー教室を二日間に分けて実施する。業間運動では、密を防ぎながら児童の体力向上を図るために、縦割り班ごとに分かれて、時間走、短距離走、サーキットトレーニングを実施する。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立成器西小学校

今年度の重点内容

『「体育が楽しい」と思える授業作り』

『児童が自ら目標を立て、ふり返りができる環境作り』

『めあてを明確にした業間運動、なわとび等の充実』

<体育の授業について>

- ・児童が楽しみながら運動に取り組めるよう教員間で連携を図り、進んで活動しようとする意欲を育てる。
- ・自分の動きを動画で撮影し、客観的にふり返ったり、動画を撮りためて、動きの変化を実感したりするなど、タブレット端末を活用する。
- ・3年生以上は「体育ノート・ファイル」を活用し、授業の記録やふり返り、次時のめあてなどを書かせる。教師がそれを見て、次時の活動内容に生かす。
- ・保健領域では、養護教諭や外部講師による指導を積極的に取り入れ、家庭にお便り等で発信しながら学習内容の定着を図る。

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- ・週に3回（月、水、金）業間運動に取り組む。晴天時は「ランニング」と、「遊具を利用したサーキット」に取り組み、持久力、握力、瞬発力などを鍛える。マラソンカードをクリアした児童を表彰し、意欲をもって取り組めるようにする。雨天時や冬季には、「なわとび運動」を行い、持久力や技術の向上を目指す。
- ・昨年の体力テストの結果、本校は短距離や跳躍の項目が弱かった。そのため、業間運動のランニングでは、ラストスパートを意識させるために、「ラスト30秒」のアナウンスを追加した。サーキットでは、昨年まで1周で終わりだったところを何度もジャンプする運動に取り組むために、時間いっぱい周回し続けることにした。意欲をもって取り組めるように、サーキットもマラソンカードに記入できるようにした。
- ・放課後は、相撲の練習（5月～6月）、クロスカントリースキーの練習（1月～2月）などに参加を呼びかけ、1日1時間以上の運動を目指す。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取組み等）>

- ・9月に行われる市の連合体育大会に向けて、全職員体制で児童の指導にあたる。具体的な目標をもたせながら、記録に向かって児童間で切磋琢磨できるようにする。
- ・地元で開催されるスポーツ競技会（マラソン大会、相撲、卓球、スキー大会など）への参加を広く呼びかけ、可能な限り練習会を設ける（昼休みや放課後など）。
- ・ソーシャルディスタンスを取ることと様々な場所で遊ぶことを促すために、学年ごとに遊べる場所を指定する。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立村岡小学校

- ・教科体育や業間体育を通して、運動の機会を増やし、さまざまな動きを経験させ、学年や発達に応じた基本的な技能を身に付けさせる。
- ・全校遊びなどを通し、休み時間に体育館やグラウンドで体を動かす児童をさらに増やす。
- ・業間体育で年間を通して様々な運動を取り入れる。（サーキット・大縄跳び・持久走・体幹トレ）

<体育の授業について>

- ・児童が楽しみながら体力を向上させられるよう、運動遊びを積極的に取り入れたり、ゲストティーチャーを招いたりして、教材や指導方法を工夫する。
- ・毎時間の学習のめあてを明確にするとともに、児童が自分の学習をふり返る時間を設け、自分の体力や運動に対する意欲・関心につなげられるようにする。
- ・コロナ禍による運動不足や経験不足を補えるように、それぞれの学年で足りない力をつけられるような体づくり運動を積極的に取り入れる。（全校としては主に敏捷性）
- ・目標を持たせ、長距離走に意欲的に取り組めるようにする。
- ・プール指導の際の準備体操にラジオ体操を取り入れ、正確に体操ができるよう指導する。
- ・器械運動は全学年同時期に実施する。教師同士の情報交換を行い、環境整備をしながら、異学年交流を活発に行う。
- ・養護教諭や他教科（主に理科・総合的な学習の時間）等と連携し、様々な視点から保健指導を行う。

<特別活動について >※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- ・高学年のクラブ活動のなかに、陸上クラブ（冬季はクロスカントリースキー）、球技クラブを設け、年間を通して目標を持って練習し、大会に参加する。
- ・委員会の活動として、大休みや昼休みにグラウンドや体育館で遊ぶよう呼びかける。
- ・毎週2回、2校時と3校時の間の大休みに元気アップタイムを設け、晴天時はグラウンドで持久走・サーキットトレーニング・大縄跳びを、雨天時は校舎内で体幹トレーニングでの体づくりを全校体制で行う。
- ・9月の市連合体育大会に向けて、2学期最初から陸上練習を行う。
- ・スーパードッジボール大会や市少年少女スキー大会に向けて、放課後に練習を行う。
- ・大休みや昼休みに体育館やグラウンドで積極的に体を動かすよう、働きかける。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取り組み等）>

- ・休み時間には、体育館やグラウンドで外遊びする児童をさらに増やす。
（体育館の使用を学年別にする）
- ・対外的な大会への参加について、積極的に参加希望を募り、地域・保護者と協力して体力を向上させる。
- ・夏休みに、「親子体づくり」結果をレポートにまとめ、文化祭で掲示をする。
- ・栄養教諭の指導のもと、食事と体づくりについて児童が学ぶ機会を設けるとともに、健康な体をつくるための食事について家庭にも知らせていく。
- ・町民運動会に全員が参加する。また、各地区の運動会にも参加するよう呼びかける。
- ・クロカンマラソンなど、市で運営する体育行事に参加するように積極的に呼びかける。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立三室小学校

- 児童がめあてや目標を持ち、それに向かって意欲的に授業に取り組めるよう工夫する。
- 児童がさまざまな運動に親しみ、達成感や満足感を味わえるように工夫する。

<体育の授業について>

- 1 一辺倒な準備運動ではなく、単元に合った、意味のある準備運動を設定する。
- 2 「めあての提示」「自己目標の設定」「学習カードの工夫」「有効な振り返り活動」の取り組みを行い、運動意欲と基礎体力の向上に努める。
- 3 地域の特色を生かしたスキー学習に低学年から取り組み、地域や気候に応じた運動に親しむ。
- 4 栄養教諭や養護教諭を積極的に活用し、生活習慣を見直す活動などを通して健康教育を充実させる。

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- 1 校内マラソン記録会
10月下旬に実施。がんばりカードを活用し、目標を設定するなど、タイムアップを実感できるようにする。
- 2 勝山市小学校連合体育大会
9月中旬実施。5、6年生が参加。選手種目のほか全員種目の徒競走や8の字跳びによって体力や技能の向上を図る。
- 3 校内スキー教室
3～6年生が参加。1月下旬実施。スキーの技能を高め、スキーの楽しさを味わわせる。
- 4 クロスカントリースキー教室
1月より授業やクラブ活動において、全校でクロスカントリースキーに取り組む。外部講師を依頼し、3年生以上の全児童が長尾山の大会コースでの練習会に参加することで、スキーの楽しさを味わわせたり、技能の向上に努めさせたりする。
- 5 校内なわとび記録会（※アクティブワン）
2月中旬実施。記録会に向けて自己記録や校内歴代記録を目標に練習を積み、がんばったことの発表の場とする。
ハイスピード短なわや種目跳びのみならず、全校で8の字跳びにも取り組み、運動意欲の向上に努める。
- 6 ランランタイムの実施（※アクティブワン）
週2回、業間に全校で実施する（雨天時は主に8の字跳びを行う）。冬季は、なわとびタイムに移行する。毎週火曜日は、5分間走を行い、走った距離を確認させ、意欲的に取り組もうとする態度を養う。毎週金曜日は、外周コースに出てマラソンを行う。周数やタイムを計測し、次回の目標とさせる。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取組み等）>

- 1 コロナ禍での工夫や取組み
体育の授業では、児童が間隔を空けるように指導する。授業や休み時間の運動後、手洗いを励行する。
- 2 地域の体育的行事への参加
少年少女スキー大会などの地域の体育的行事への参加を呼びかける。
- 3 外遊びの推奨
これまで同様、休み時間には外で鬼ごっこやサッカーなどをするよう勧め、運動不足の解消を目指す。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立野向小学校

- ・運動が好きな児童90パーセント以上を目指した体育の授業・体育的活動の工夫
- ・業間体育で、目標に向かい我慢強く、自己の限界を突破できる児童の育成
- ・放課後や休み時間に進んで体を動かすことのできる児童の育成

<体育の授業について>

- ・低学年では雲梯や登り棒などの遊具を活用したり、遊び的要素を取り入れた運動を工夫したりして、意欲的に運動に取り組ませる。
- ・学習カードを活用する。学習カードには、めあてとふりかえりの欄を設けるようにする。各時間のめあてに対して、どのぐらいがんばることができたかをふりかえらせ、各々が課題意識をもって次時の授業に臨めるようにする。
- ・陸上運動や器械運動において、ICT機器を活用して、児童に自分自身の動きを確認させて指導し、正しい動きの習得に役立たせる。
- ・冬季期間は、クロスカントリースキー(XC)に全学年が取り組む。学校やコースで練習を行い、全員が上達する楽しみを味わえるようにする。

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- ・業間体育を週に2回実施する。7分間走では、学期ごとに目標周数を決めて取り組ませる。月に1回は距離走とし、タイムを記録していくことで、自己の成長を感じられるようにする。冬季はなわとびに取り組む。休み時間にも進んで取り組めるように、多様な技を紹介する。マラソン、なわとびともに、カードや掲示を工夫し、児童の意欲が継続するようにしていく。
- ・器械運動発表会やスキー大会XC競技に向けての、放課後練習会を実施する。全職員で指導・支援にあたり、安全確保に努めるとともに、児童の技術向上を図る。
- ・クラブ活動では、年間の時数の内半分程度をスポーツクラブの活動とし、3年生以上の児童全員が参加するものとする。活動内容を高学年が中心となって考え、児童自身が運営することで運動への意欲と自主性を高める。
- ・月に1回程度、全校で運動遊びをする機会を設ける。多学年での交流を通して上級生が下級生にアドバイスをしたりお手本を見せたりさせながら、たてのつながりを強くしていく。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取り組み）>

- ・ラジオ体操は、体育的行事の準備運動として実施する。町民体操祭に参加したり、全国小学校ラジオ体操コンクール（かんぽ生命主催）に応募したりすることで、意欲を高めてラジオ体操に取り組む。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立荒土小学校

- ・友達と協力しながら課題解決ができる授業作り
- ・運動することへの楽しさを体感しながら体力をつけさせる活動の充実
- ・見通しをもった保健指導

<体育の授業について>

- ・毎時間、体力作り（短距離走・長距離走・柔軟運動）の時間を設け、運動量を確保する。
- ・児童が自分の課題に気づき、それぞれの課題に応じた目標の設定ができるよう、振り返りや話し合いの時間を設ける。
- ・勝山の地域性を活かし、クロスカントリースキーを計画的に取り入れ、スキー技術の向上と冬季の体力向上を図る。
- ・少人数学級の特性を生かし、合同体育などの柔軟な授業形態をとる。
- ・自分の動きを客観的に捉えられるよう、タブレットなどICT機器を積極的に使用する。
- ・年間の生活目標や委員会活動、児童会行事と関連させ、保健の指導に当たる。
- ・短距離走のトップアスリートの派遣を依頼し、児童に速く走る技を習得させ、走ることの楽しさ、喜びを体感できるよう努める。

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- ・時間走、短距離走を中心として、業間の時間を計画的に活用し、持久力、瞬発力、柔軟性の向上を図る。
- ・業間体育の時間に教員が積極的に児童に声をかけ、運動する意義や楽しさを味わわせる。
- ・昼休みなどに外に出て遊ぶよう声をかけたり、教師自ら児童と一緒に遊んだりして外遊びを推奨する。
- ・業間の時間や昼休みに楽しく外で遊べるように運動用具の充実を図る。
- ・雨天時や冬季には、短縄、大縄を推奨し、運動能力の向上を図る。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取組み等）>

- ・町民運動会と校内運動会を共同で開催し、地域の人たちと運動することの楽しさを共有させる。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立鹿谷小学校

自ら運動に親しみ、自分に合った運動を選択できる鹿の子の育成

<体育の授業について>

- ・児童が自分の課題に応じて運動に取り組めるよう、場の設定や学習内容、振り返りシートを工夫する。
- ・授業の始めに単元を見通した計画や本時の「めあて」を示し、終わりには発表や記述で「ふり返り」を行うようにして、児童が「めあて」に迫る動きや活動ができるようにする。また、中学年以上で体育ファイルを作成してワークシートを保管し、単元を通した学びや成長を児童が実感できるようにする。
- ・児童の楽しさを重要視した授業作りを行う。そのために、遊びの要素も取り入れ、運動が苦手な児童も楽しんで体を動かせるようにする。また、「協力する活動」や「話し合う活動」を多く取り入れ、児童同士がかかわり合い、「主体的・対話的で深い学び」となるような授業作りを行う。
- ・体力テストの課題を克服するために、オリジナルの準備体操「バンビ体操」を授業の最初に取り組み、筋肉をほぐすだけでなく、筋力を高める運動や、体の柔軟性を高めるストレッチ運動を取り入れる。音楽に合わせて体操するため、発声の必要がなく、コロナ感染対策となっている。
- ・養護教諭と連携し、月の保健目標と関連づけながら、歯の健康、姿勢、睡眠の大切さなど、学年の発達段階に応じた保健指導を行う。

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- ・毎週火・金曜日の業間の10分間（10:10～10:20）に、全校で体力作りに取り組む。晴天時には、持久力を高める運動（のびやかマラソン）に取り組む。また、雨天時にも持久力や技術向上のため、なわとびに取り組む。
- ・体力テストの結果から、本校は筋力・柔軟性に課題があるため、冬季期間中はなわとびに加え、体幹を鍛えるトレーニング（ムキムキ体操）やストレッチ（バンビ体操）を高学年と低学年に分かれて行う。
- ・児童会が中心になって、縦割り班で一斉に跳ぶ大縄大会をする。高学年が中心になって時間を見つけ、競って練習し合う。
- ・なわとび大会の一環として、クラス対抗8の字跳び大会を行う。
- ・体育館に一輪車と鉄棒を常設し、昼休みに児童に自由に使わせることによって、体幹や筋力、バランス感覚の強化を図る。
- ・冬季の体育の授業において、全校でクロスカントリースキーの練習に取り組む。また、2月に行われる市の少年少女スキー大会（クロスカントリースキーの部）に積極的な参加を呼びかけ、目標に向かって努力する機会を設ける。
- ・夏休みや運動会等の行事の前にはラジオ体操の正しいやり方を全校に指導する。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取組み等）>

- ・授業中の姿勢が悪い児童が目立つため、家庭でできるストレッチや体幹トレーニングを紹介し保護者と共に行ってもらうように促す。また、養護教諭と協力し授業中の姿勢の大切さを保護者に啓発する。
- ・体育館に立つ位置のポイントを打ち、隣の人とのソーシャルディスタンスを保つよう心がけさせる。

令和4年度 児童生徒体力づくり推進計画書（小学校用）

～元気パワーアップ作戦～

学 校 名 勝山市立北郷小学校

自ら楽しみながら運動に親しむ児童の育成

<体育の授業について>

- ・全学年で授業始めのアップとして、準備運動に加えて多様なフットワークを取り入れ、体の動きを制御する力を系統的に身に付けさせる。特に一学期は運動不足解消・運動能力低下対策のためにも、アップでゆっくり体をほぐし、全身を使った運動を多めに取り入れるようにする。
- ・保健領域の指導については、必要に応じて養護教諭や学校栄養職員補助とTTで授業を行いよりよい生活習慣や運動習慣等の定着のための授業を計画する。

<特別活動について ※「アクティブワン（業間運動）」を含む>

- ・マラソン大会
大会前には個人のマラソンカードを用意し、朝活動、業間運動等で取り組む。取組の記録を掲示したり各自で目標を設定したりすることで、意欲の向上を図る。
- ・なわとび大会
2月に全学年同日実施する。大会前には個人のなわとびカードを用意し、休み時間や業間運動等で取り組む。大会新記録を体育館に残し、歴代の記録が分かるようにする。

【アクティブワン活動】

通年、週2回(火・木)の業間を全校運動の時間として設定。内容は基本的に体育主任と体育委員で考えた「全校児童が楽しく取り組めて、全員に運動量のある運動」の案より決定する。準備・片付けも体育委員で行う。昨年度は様々な種類の鬼ごっこ、マラソン、なわとびなどがあつた。また、それとは別に水曜日の大昼休みを利用して、学期に1回程度、体育委員会企画を実施したい。しかし、今年度もコロナ禍で異学年交流を積極的に行いづらいため、感染状況を鑑みて判断していく。

<その他（家庭や地域、外部団体等との連携、コロナ禍での工夫や取組み等）>

- ・生活リズムが乱れ始める傾向のある高学年を対象に、チェックカードを利用して保護者と協力しながら、望ましい生活習慣が身に付くように指導する。
- ・勝山恐竜クロカンマラソンや市少年少女スキー大会などの地域の体育的行事への参加を積極的に呼びかける。
- ・年間の休み時間中の怪我を防ぐため、体育館や校庭を使う時のルールを整理し、児童の安全面の充実を図る。